

平成27年度三次市行政評価

# 施策評価一覧

(2次評価結果)

平成27年10月

三次市政策部企画調整課

## 【評価対象施策】

- 1 三次の文化・芸術の発展継承と創造
- 2 男女がともに活躍できる環境の充実
- 3 障害があっても自立して暮らせるまちづくり
- 4 都市の中核・拠点性の強化
- 5 市民の期待にこたえる市役所づくり

平成 27 年度 施策評価シート

作成日  
平成27年 9 月 29 日

番号	施策名	担当部署名
1	三次の文化・芸術の発展継承と創造	教育委員会 文化と学びの課

■分類・属性等

総合計画	施策コード	取組の柱	大項目	中項目
	1 3 3	第1 ひとつづくり	3 スポーツ・文化	(3) 三次の文化・芸術の発展継承と創造

■施策の目的・めざす姿

本市の文化・芸術を発展的に継承し、創造し、発信していく。そのために、市民が高度で上質な文化・芸術を鑑賞できる状況を作るだけでなく、市民の主体的な文化的活動を支援する。

■指標

指標		単位	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画	目標値 (目標年度)	指標の説明・変化の所見
成果指標	1 文化施設利用人数	人	172,957	147,725	175,000	200,000 (平成35年度)	美術館、市民ホールほか
	2						
	3						
【参考指標】	4 市民ホール開館記念事業入場者数	人	—	7,131	12,000		
	5 小中学生利用者	人	4,635	3,436	5,000		奥田元宋・小由女美術館入館者
	6 芸術鑑賞事業	回	2	0	2		広響音楽セミナー

■取組と成果（進捗状況はどうか？成果は上がっているか？）

各美術館とも特色を打ち出した企画展等を開催しており、特に奥田元宋・小由女美術館は年間5万人を超える入館者を記録している。また、供用開始したばかりの市民ホールでは今年度の土日・休日の利用は予約で埋まっており、多くの利用をいただいている。辻村人形館は昨年度9,100人超の入館者を迎えており、三次町活性化の中心的施設となっている。文化の核となる施設を中心に新たな活動も生まれている。

■課題（今、何が問題か？）

文化・芸術に関する諸施策を、参加者（入場者）数等の定量的な指標だけで評価が可能かどうかという問題がある。文化・芸術の成果を誰がどのように評価すべきかを検討する必要がある。特に、スポーツ・文化振興事業検討委員会のあり方について検討が必要。また、観光部局との連携をどう充実させていくか検討する必要がある。

■今後の対応（これからどう取り組んでいくか？）

文化・芸術の成果を外部の専門家による評価を受けることを検討する。魅力的な企画展等の発信と同時に、文化とそれを担う人材を育成するプログラムの作成、実施を検討し、文化の拠点性を向上させる検討を行う。

■2次評価（内部チェック会議）における意見等

文化の振興を、施設の管理・活用のみでとらえるのではなく、市民の喜びや生きがいづくり、まちの魅力向上につながるものとして幅広くとらえることが重要であり、これを踏まえて、今後の方針を構築する必要がある。成果の検証については、入館者数だけでなく、外部の評価や満足度など、目的に応じた成果の分析方法を検討する必要がある。

■施策に関連する事務事業と行政チェック結果

番号	27年度行政チェック番号	事務事業名	活動指標		事業費(千円)		定性分析ランク	総合評価	担当部署
			指標名	単位	25年度実績	25年度実績			
					26年度実績	26年度実績			
					27年度計画	27年度計画			
①	30	スポーツ・文化振興事業補助金	採択件数	件	1 3 5	1,622 2,348 4,368	B	廃止	文化と学びの課
②	31	文化振興活動支援事業	実施件数	件	20 22 20	14,131 11,043 15,609	B	縮小	文化と学びの課
③	32	市民ホール開館記念事業	実施件数	件	— 6 15	— 18,648 50,820	A	終了	文化と学びの課
④	32	同上	入場者数	人	— 7,131 12,000				
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									

■施策コスト【参考値】

		平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
主な事務事業	事業費(千円)	15,753	32,039	70,797
	職員数(人)	0.4	1.4	1.9

■備考

--

平成 27 年度 施策評価シート

作成日  
平成27年 9 月 29 日

番号	施策名	担当部署名
2	男女がともに活躍できる環境の充実	子育て・女性支援部 女性活躍支援課

■分類・属性等

総合計画	施策コード		取組の柱	大項目	中項目
	1	4	1	第1 ひとつづくり	4 男女共同参画・平和・人権 (1) 男女がともに活躍できる環境の充実

■施策の目的・めざす姿

男女が家庭や仕事，地域社会での生活を大切にしながら，自らの意志で働くことを選択した時に，誰もが安心して働き続けられるよう，仕事と家庭の両立に向けた環境を充実する。

■指標

指標		単位	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画	目標値 (目標年度)	指標の説明・変化の所見
成果指標	1 女性委員登用率	%	29.9%	29.1%	30.0%	50% (H35)	地域審議会がH25まで(委員90人うち女性40人41.7%)
	2 女性就業率	%	68.0%	68.3%	68.6%	73.0% (H35)	目標指標(H22国勢調査)のため,労働力調査参考にした見込
	3						
【参考指標】	4 セミナー来場者	人	418	289	2,000		H27に大規模なイベントを開催予定
	5						
	6						

■取組と成果(進捗状況はどうか?成果は上がっているか?)

女性委員登用率については，男女共同参画基本計画(第2次)に数値目標を掲げ，平成25年度までに33.3%を目指したが，現状は目標値まで至らなかった。しかし，今後は女性の就業率とあわせて，総合計画の参考指標にも掲げられており，市全体で女性が家庭や仕事，地域で活躍できる機運が醸成されると考えられる。

■課題(今，何が問題か?)

平成26年度に「市民アンケート」実施した結果，本市では「男女の平等感について」において「男性優遇」の意見が84.8%と全国的な世論調査より14.6%高く，未だに男女ともに「男女共同参画」の意識が地域に浸透しておらず，そのことが女性の活躍推進に影響していると考えられる。

■今後の対応(これからどう取り組んでいくか?)

男女共同参画基本計画(第3次)策定にあわせ女性活躍推進計画を策定し，より具体的な指標を掲げ，施策を推進する。

■2次評価(内部チェック会議)における意見等

三次市においては，家庭生活・地域社会・社会通念やしきたりの部分で男性優遇の意見が多く，市民の意識の変革が求められる。同様に，女性の就業率は全国と比べて高いものの，所得の面では男性が上位にある。この現状に問題意識を持ち，今後策定する女性活躍推進計画に盛り込みながら，男女がともに活躍できる環境を整えていく。

■施策に関連する事務事業と行政チェック結果

番号	27年度行政チェック番号	事務事業名	活動指標		事業費(千円)		定性分析ランク	総合評価	担当部署
			指標名	単位	25年度実績	25年度実績			
					26年度実績	26年度実績			
					27年度計画	27年度計画			
①	38	男女共同参画推進事業(講演会・セミナー等)	講演会・セミナー 来場者数	人	418 289 2,000	7,228 8,612 7,469	B	継続	女性活躍支援課
②	36	病後児保育事業	延べ利用人数	人	61 71 120	4,822 4,712 6,076	B	継続	子育て支援課
③	37	延長保育推進事業	実施保育所数	所	8 8 8	22,750 18,059 4,814	B	継続	子育て支援課
④	72	女性・若者・シニア起業支援事業	事業実施件数	件	7 3 7	13,118 5,126 8,364	B	終了	商工労働課
⑤	73	女性就労促進事業	事業実施件数	件	- 2 3	- 1,762 3,788	B	終了	商工労働課
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									

■施策コスト【参考値】

		平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
主な事務事業	事業費(千円)	47,918	38,271	30,511
	職員数(人)	1.18	1.28	1.2

■備考

--

平成 27 年度 施策評価シート

作成日  
平成27年 9 月 29 日

番号	施策名	担当部署名
3	障害があっても自立して暮らせるまちづくり	福祉保健部 社会福祉課

■分類・属性等

総合計画	施策コード	取組の柱	大項目	中項目
	2 2 2	第2 暮らしづくり	2 福祉	(2) 障害があっても自立して暮らせるまちづくり

■施策の目的・めざす姿

障害のある人一人ひとりが地域の一員として尊重され、自己選択と自己決定のもとに、安心して自分らしく自立した生活を送ることのできる地域社会を実現する。

■指標

指標		単位	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画	目標値 (目標年度)	指標の説明・変化の所見
成果指標	1 障害福祉サービスの月平均延べ利用人数	人	623	745	775	863 (平成29年度)	三次市障害福祉計画（第4期）より
	2 地域活動支援センター事業所数	箇所	4	4	4	4 (平成29年度)	三次市障害福祉計画（第4期）より
	3 相談支援事業所数	箇所	7	7	7	7 (平成29年度)	三次市障害福祉計画（第4期）より
【参考指標】	4 身体障害者手帳所持者数	人	3,263	3,245	—		
	5 療育手帳所持者数	人	566	581	—		
	6 精神障害者健康福祉手帳所持者数	人	421	444	—		

■取組と成果（進捗状況はどうか？成果は上がっているか？）

相談支援事業の充実により、障害福祉サービス利用や、地域活動支援センターの利用へとつながっている。

■課題（今、何が問題か？）

施設入所者や長期入院者の地域生活への移行と、移行後の定着に向けた支援体制の整備。地域生活を送るためのグループホームの確保。

■今後の対応（これからどう取り組んでいくか？）

地域生活支援拠点の整備と併せて、地域移行支援事業・地域定着支援事業を実施し、障害者が地域で安定した生活が送れるよう支援する。

■2次評価（内部チェック会議）における意見等

相談機能の充実により、これまで制度を知らなかった人がサービスを利用できるようになってきたという成果がある。今後は、地域の受け皿の整備など課題は多いが、地域移行・地域定着支援の実現に向けて取り組んでいく必要がある。タクシー券の制度については、より効果を高めるための研究が求められる。

■施策に関連する事務事業と行政チェック結果

番号	27年度行政チェック番号	事務事業名	活動指標		事業費(千円)		定性分析ランク	総合評価	担当部署
			指標名	単位	25年度実績	25年度実績			
					26年度実績	26年度実績			
					27年度計画	27年度計画			
①	57	障害者生活支援事業	相談件数	件	5,623 6,578 7,000	34,403 36,757 37,808	A	継続	社会福祉課
②	57	同上	就労者数	人	10 10 7				
③	58	障害者福祉タクシー等利用助成事業	交付枚数	枚	65,150 66,600 68,200	29,044 30,061 30,788	A	継続	社会福祉課
④	58	同上	使用枚数	枚	56,589 58,431 59,834				
⑤	59	障害者地域活動支援センター事業	通所者数	人	6,276 6,431 6,500	32,494 34,478 37,330	A	継続	社会福祉課
⑥	59	同上	利用登録者数	人	84 98 100				
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									

■施策コスト【参考値】

		平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
主な事務事業	事業費(千円)	95,941	101,296	105,926
	職員数(人)	0.28	0.28	0.28

■備考

--



平成 27 年度 施策評価シート

作成日  
平成27年 10 月 5 日

番号	施策名	担当部署名
4	都市の中核・拠点性の強化	建設部 都市建築課

■分類・属性等

総合計画	施策コード		取組の柱	大項目	中項目
	4	3	2	第4 環境づくり	3 生活基盤

■施策の目的・めざす姿

三次市の「まちの魅力」を向上させるため、計画的な都市機能の整備の一つとして、エントランス機能の強化を行う。

■指標

指標		単位	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画	目標値 (目標年度)	指標の説明・変化の所見	
成果指標	1	都市計画区域内人口	人	34,270.00	33,993.00	34,000.00	—	
	2	住みよさランキング	位	1	3	2 (実績)	—	都市データパック 広島県内順位
	3							
【参考指標】	4	三次駅周辺整備事業整備率	%	79.0	90.0	100.0		予算ベース
	5							
	6							

■取組と成果（進捗状況はどうか？成果は上がっているか？）

三次駅周辺整備事業として、JR三次駅前広場やその周辺の整備を行う。バスセンター機能の集約やコミュニティセンターの併設により都市としての魅力を向上させている。また、JR西日本広島支社による三次駅舎の建替えや、中原踏切の拡幅、広島県による国道183号の電線地中化及び拡幅事業など、他の事業者との協働により、三次市の玄関口としての機能の向上を図っている。  
三次市、JR西日本による整備は平成27年度に完了予定だが、引き続き広島県の事業が進行しており、完成のあかつきには、都市の魅力あふれる三次駅前が現れる予定である。

■課題（今、何が問題か？）

三次市による整備は概ね完了しているが、供用開始後に現れた 交通センター内への一般車両の乗り入れ、車両通行帯への歩行者の進入等、改善が必要とされる事項がある。安全な施設管理のため、サイン設置等を検討している。

■今後の対応（これからどう取り組んでいくか？）

三次駅周辺整備事業として整備した施設を活用して、イベント等を開催し、賑わいの創出につなげる。また、広島県で施工する国道183号について、整備促進に向け必要な協力を行う。

■2次評価（内部チェック会議）における意見等

様々な課題があったなかでも、三次駅周辺整備事業が完了したことは、一つの大きな成果である。JRとバスセンターが接続し、交通の利便性は向上した。今後は、利用率の向上などのソフト面の充実を図るとともに、周辺部への面的な広がりを着実に進めて行く必要がある。

■施策に関連する事務事業と行政チェック結果

番号	27年度行政チェック番号	事務事業名	活動指標		事業費(千円)		定性分析ランク	総合評価	担当部署
			指標名	単位	25年度実績	25年度実績			
					26年度実績	26年度実績			
					27年度計画	27年度計画			
①	135	三次駅周辺整備事業	整備率(予算ベース)	%	79 90 100	755,003 389,399 178,624	A	終了	都市建築課
②	136	土地区画整理事業(三良坂駅前線・下郷地区)	事業進捗率	%	70 80 85	497,063 382,803 273,969	B	継続	都市建築課
③	137	地籍調査事業	進捗率	%	62.5 64.0 65.3	219,343 230,344 244,176	A	継続	財産管理課
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									

■施策コスト【参考値】

		平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
主な事務事業	事業費(千円)	1,471,409	1,002,546	696,769
	職員数(人)	9.25	13	11

■備考

--

平成 27 年度 施策評価シート

作成日  
平成27年 9月 28日

番号	施策名	担当部署名
5	市民の期待にこたえる市役所づくり	総務部 総務課

■分類・属性等

総合計画	施策コード		取組の柱	大項目	中項目
	5	2 3	第5 しくみづくり	2 行財政改革	(3) 市民の期待にこたえる市役所づくり

■施策の目的・めざす姿

【目的】市民のしあわせを実現させるため、行政として何をしなければならぬか、何が出来るのかを考え、スリムでフットワークの良い行動する組織づくりに取り組む。  
【めざす姿】そのために、「社会の変化や課題を的確につかみ、対話力があり、目的・方針を共有し、自立的に考え、機敏な行動がとれる職員」を育成し、女性職員や若手職員、チャレンジする職員を活かして育てる組織風土改革に取り組み、市民に信頼される行政をめざす。

■指標

指標		単位	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画	目標値 (目標年度)	指標の説明・変化の所見
成果指標	1 市民満足度	%	—	—	—	平成30年度 80%	市民アンケートを実施 H24：気持ちよく来庁できた 63% 普通31% 不快5%
	2 常に市民の視点に立って 仕事に臨む職員	%	—	75%	80%	平成30年度 90%	職員アンケートを実施
	3 組織のビジョンを持ち、 達成に向けて仕事を進め ている	%	—	66%	70%	平成30年度 90%	職員アンケートを実施
	4 仕事を通して成長してい る実感が得られているか	%	—	66%	70%	平成30年度 80%	職員アンケートを実施
【参考指標】	5 職員研修受講者数	人	490	1,719	1,500		平成26年度は全職員対象研修 を2回実施したため
	6 事務改善実践事例 報告・提案	部署	40	43	43		件数としては、25年度59件、 26年度53件
	7 女性管理職割合 (女性係長級割 合) <small>※産院医療職除く</small>	%	14.9 (35.6)	19.2 (34.5)	20.0 (35.8)		女性管理職(係長級)への積 極登用を行っている 引き続き取り組む
	8 若手職員割合 (34歳以下)	%	9.5	8.7	9.6		10%以下の状態が継続 平成30年度に18%をめざす

■取組と成果(進捗状況はどうか?成果は上がっているか?)

- 平成25年度に対話型職員育成制度を課長級に導入し、平成26年度からは全職員で運用を開始した。行動モデルシートにより、めざすべき職員像、役割を明確にし、上司との対話を通じて各自の取組と振り返りを行い、職員の資質向上と組織活性化に取り組んだ。
- 女性職員の活用については、管理職及び係長級への登用を積極的に行っている。
- 若手職員の育成については、効果的な研修を実施するとともに、新定員管理計画では年齢構成の適正化を図ることとした。持続可能で安定した組織運営と活力ある組織をめざす。

■課題(今、何が問題か?)

- チャレンジしやすい又チャレンジする職員を認める風土づくり(人事評価制度の公正な運用の徹底)
- 努力が他者から評価されていない、どう評価されているのかわからないとする職員が49%。これを減らす必要がある。
- 所属組織への貢献意欲を向上させ、過度な縦割意識、狭隘な担当者意識を変えていく必要がある。
- 若手職員の人数が限られており、通常業務以外でも活躍できる環境を作り出す必要がある。

■今後の対応(これからどう取り組んでいくか?)

- 職員の貢献度意識、行動力を高めるため、平成28年度から新たな人事評価制度を導入する。
- 業務の見直しを図る中で、チャレンジしやすい環境を作り出す。又チャレンジする職員を認める組織づくりに取り組む。
- 女性職員の積極登用に引き続き取り組む。老若男女を問わず管理能力の高い職員を登用する組織をめざす。
- 若手職員をリーダーとした、研究チームやプロジェクトチームを推進する。
- 新規採用を計画的に行い、年齢構成の適正化に取り組む。

■2次評価(内部チェック会議)における意見等

市町村合併以降、職員数を減らしてきた状況のなかでも、各種の研修などにより、意識が高い職員が育ってきている。しかしながら、一人あたりの業務量は増加していることもあり、より縦割り意識が強くなっている現状も見受けられる。市の組織機構のあり方を十分検討しながら、部署を越えて取り組む施策に対応できる体制整備が必要である。

■施策に関連する事務事業と行政チェック結果

番号	27年度行政チェック番号	事務事業名	活動指標		事業費(千円)		定性分析ランク	総合評価	担当部署
			指標名	単位	25年度実績	25年度実績			
					26年度実績	26年度実績			
					27年度計画	27年度計画			
①	156	総務事務等アウトソーシング	削減職員数	人	0 1 2	10,872 14,439 14,008	B	継続	総務課
②	157	土・日曜日窓口業務	業務対応件数	件	5,068 4,641 4,700	1,472 1,524 1,576	B	継続	市民課
③	【参考】	職員研修	受講者数	人	490 1,719 1,500	6,872 6,043 7,861			総務課
④	【参考】	事務改善実践事例報告・提案	提出件数	件(部署)	59(40) 53(43) 43以上(43)	365 264 300			総務課
⑤	【参考】	対話型職員育成制度	対象職員数(評価者含む)	人	67 585 567	1,823 1,500 1,776			総務課
⑥	【参考】	自主研究グループ助成補助金	自主研究グループ数	団体	3 4 3	137 96 100			総務課
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									

■施策コスト【参考値】

		平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
主な事務事業	事業費(千円)	21,541	23,866	25,621
	職員数(人)	0.5	0.3	0.3

■備考

--